

授業科目名(英文名) / Course title	時事的問題 / Current Topic				
担当教員(所属) / Instructor	高山 龍太郎(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 総合科目系				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期期限 / Period	2024年度 / Academic Year 前期 / Spring 他	対象所属 / Eligible Faculty	教養教育科目a		
時間割コード / Registration Code	106450	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	2単位
ナンバリングコード / Numbering Code	1X1-00041-1900				
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code	106450				
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor	高山 龍太郎				
MoodleコースURL / Moodle course URL	<a href="https://moodle51.u-toyama.ac.jp/course/view.php?idnumber=2024_106450">https://moodle51.u-toyama.ac.jp/course/view.php?idnumber=2024_106450</a>				
各種教育プログラム1 / Various Educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various Educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various Educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various Educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various Educational programs5					
昨年度からの改善点 / Changes from last year					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice 更新日 2024/05/30					
時事的問題日程(2024年5月30日現在)					
9月20日(金) 遠隔授業(Microsoft Teams) 3限 西野 4限 佐藤					
9月26日(木) 対面授業(富山大学五福キャンパス) 3限・4限 ストランデル 5限 佐藤					
9月27日(金) 対面授業(富山大学五福キャンパス) 1限 佐藤 2限 ストランデル・佐藤 3限・4限・5限 西野					
9月28日(土) 対面授業(富山大学五福キャンパス) 1限・2限 大野 3限・4限 西野・大野 5限 高山					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学修目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				

タイトル：「どうする日本！！ 地球全体の状況と日本の状況を知り、考え、学生として何をすべきかを考える。自己認知からの変革を生むために何が必要かを学ぶ」

この授業では、日頃、学生の皆さんが触れることのない、各方面で活躍している様々な経験を持つ講師が講義を行います。20世紀は劇的な変化と進化の世紀でした。その結果、日本は世界第3位の経済大国になりましたが、環境問題、高齢化・少子化、非正規雇用の増加など、国内においても多くの課題が存在します。

最近では、映画の世界だけのことと思われがちな新しい感染症が世界中をパンデミックに陥れました。さらに、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナとイスラエルの交戦開始など、国際情勢はますます混迷を深めています。

地球規模での課題や問題が突発的に起こり、その影響がグローバルレベルで証明されました。今の国家の考え方や経済成長モデルでは、人類が行き詰まることが見えてきています。これは、日本の若者の将来に対する不安をさらに大きくしています。

社会はデジタルネットワークの発達により大きく変革の途上にあります。21世紀を生きる主人公としての皆さんに、どのような視点と考え方、そして行動が求められているか、学習することの重要性を示す講義です。各界での研鑽と活躍をしている方々から直接経験と知識を学び、人生観についても掘り下げていきます。講師と学生の双方向のパネルディスカッションや、学生を小グループに分けたワークショップも行います。世界を見つめ、認識し、「自己認知力」を高めて、今後の人生で活かせる力を身につけるための授業です。この授業を受講することで、大学生生活に新しい生活や学習及びこれからの人生の視点を得ることが出来ます。

#### 達成目標 / Course Goals

- 世界や日本社会が抱える各分野の課題について理解する。
- 課題認識と考察を踏まえ、将来自分が何をすべきかを考え、自己認知力を養う。
- 学ぶということとは何か、大学在学中に何をすべきかを考えるきっかけを得る。

(以下は、この講義を通して身につけてほしいことに関する各先生のコメントです。)

##### <西野>

自分がどの時代に生を受けるかを自らが決めることはできません。その時代にあった責任が一人ひとりに求められていることを忘れた人生は歩むべきではありません。自立した人間が必ず人生を楽しむことが出来ると考えます。

我々が歴史的にみてどのような時代に生きているのか、また大きく世の中を進化させるデジタルネットワーク社会が今後どのように社会に変革や脅威をもたらすのかを解説します。

また、急変する社会の中で「自己を認知」することが重要なのかを説明します。

講義後レポートの提出を求めますが、その中で自分の考えを、これからの貴重な人生のためにきちんと書いてもらいたいと思います。また、パネルディスカッション・グループワークなどもありますので、積極的な質問や意見と議論への参加を期待します。

##### <ストランデル>

高校時代の日本への留学をきっかけに日本での介護福祉関係の事業責任者を長らくした経験がある。

その経験と知識から、老人福祉や日本とスウェーデンを比較しつつ、高齢化社会だけでなく今後の社会の在り方を考える機会なる。

幸福とは何か、日本人が再度考えるべき貴重な自己考察の機会にもなる。

##### <佐藤>

新型コロナ禍においては、対面よりもむしろICTによるコミュニケーションが主になりつつあり、ニューノーマルにおいては、「コミュニケーション」がもつ機能が変わりつつあります。コンサルティングファームにおける経験に社会心理学の視点を交えながら講義を行います。特に気にしなくてもとれる「コミュニケーション」ですが、実は適切にとれていない、その結果として、対人関係において生じる歪みや齟齬などに直面することは多くあります。講義を通じて、コミュニケーションを適切にとるためには、自らが考えることの重要性とそのために必要なことを、自分自身でも考える機会を提供したいと考えています。

##### <大野>

将来の自分のために学生生活の今何をやるべきか、社会人になるための知識を蓄え、「何のために働くのか」の目的と目標を明確にできることをこの講座の達成目標とします。また自分自身の存在価値を高め、社会に出て遭遇する方々とのコミュニケーションが円滑にできるよう思考・行動・接し方の基本として礼儀作法・マナーの重要性をあわせて理解していただければと思います。

#### 授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule

【スケジュールは予定であり、変更の可能性があります。詳細は「リアルタイム・アドバイス」で連絡します。】

1. ガイダンス、授業の目的と期待（西野）
2. 現代社会と日本の課題（西野）
3. 事例から考える世界のダイナミズム 外部講師参加（西野）
4. 学生参加型討論（パネルディスカッション）
5. スウェーデンの福祉国家モデル（ストランデル）
6. 少子高齢社会とその影響（ストランデル）
7. 個人と社会の関係性（佐藤）
8. コンサルティング業務から見る社会（佐藤）
9. 自己のキャリア形成に必要な事（大野）
10. SDGsと社会参加(1)（大野）
11. SDGsと社会参加(2)（大野）
12. 現代社会のデジタル化とその影響（西野）
13. 国際的視野から見た日本（未定）
14. 学生参加型討論（パネルディスカッション）
15. まとめ（高山）

#### 【1.テーマ、2.講義概略】

西野 弘（株式会社HIイニシアティブ代表取締役、NPO法人CeFILデジタルビジネスイノベーションセンター共同設立者）

1. 今我々はどういう時代に生きているのか？
2. 日本がなぜ不安が大きな社会になってしまったのか？日本人として今考えるべきこと。  
人類の歴史から経済・社会・教育がどのように変化し、今後進化すべきかの考察  
自らの人生を今後どのように生きる(生きる)ことが大事になってくるのか。  
パネルディスカッション 他の講師も含めて西野と討議形式（学生も参加型）  
ゲストスピーカーを招聘して多面的な視点から話を聞く。

グスタフ・ストランデル（老人介護ホーム大手企業幹部）

1. 日本の少子高齢社会における家族と社会の役割 スウェーデンからのメッセージ
2. スウェーデンの有名な福祉国家の表と裏を紹介したいと思います。そして、その福祉国家を理解するための基にある理念を紹介します：平等・自立・自己決定。福祉の始まりとそれにおける人間の美しいもの：Empathy・共感及び感情移入。それからEmpathyとその間違えた「優しさ」の福祉に対する影響。様々な国の福祉を支えるシステムの共通点と違い：人権・影響と参加。少子高齢者社会と投票率の関係。

佐藤 慎悟（大学経営コンサルタント）

1. 自らが考える価値基準を持つ意味
2. 大学生活と将来の社会生活はどのようにつながっているか、また、いわゆる「ばら色の人生」は存在するのか。自分の立ち位置から見えるものをどう判断していくことができるのか、などについて議論をしていきたい。  
個人と社会のかかわりなど社会心理学の視点を取り込んだ考察を行う。  
価値、判断などを下すプロセスの考察を行う。

大野祐子（株式会社ビジネスリファイン代表取締役）

1. これからの時代のキャリア形成。  
コロナ時代における、世の中の大変化、企業人材の流動性の加速の中で、キャリア形成を考える。Withコロナ、感染症との共生に向けて、混乱はより進化するプロセスを考え、どう乗り越えて行くかを軸に将来のキャリアステージを考えます。  
学歴より学習歴の時代「個」の確立の重要性を学ぶ。
2. SDGs（持続可能な開発目標）を通じて、社会変革への参加意義を学ぶ。  
体験ワーク学習を通じて、SDGsを知る。社会、経済、環境にまたがる複合的な危機に対応しえない現代社会の課題を理解する。

授業時間外学修（事前・事後学修）/ Independent Study Outside of Class

Moodleなどを使って資料を配付し、事前・事後学習をおこなう予定です。授業の前に資料に目を通し、授業で何を学ぶべきか、自らの目的をもって授業に臨んでください（1日あたり30分程度）。授業終了後は、最終レポート作成のために、「将来自分が何をなすべきか」という観点から、簡略に文章をまとめてください（1日あたり20分程度）。

キーワード / Keywords

デジタル 教育 福祉 経済 政治 ビジネス、人生論、キャリアパス論、実務経験教員科目、SDGs、自己認知、自己変容科目

履修上の注意 / Notices	<p>注意 この授業では、事前学習のために、Moodleなどに受講生を登録してもらう予定です。履修者の決定後に、登録方法を指示しますので、掲示などに注意してください。 ワークショップやグループディスカッションなど多様な授業を実施します。</p> <p>【講師の自己紹介】 &lt;グスタフ・ストランデル&gt; 17歳の時日本に初めて来た。成田空港に着いた私の荷物の半分以上が剣道の防具。ホームステイして、何度も行ったり来たりした。1974年生まれ 子羊会グループ・(株)朝日ケアコンサルタント 取締役 浦安市介護事業者協議会会長、富山大学非常勤講師 浦安市介護保険運営協議会委員 ISO TC314 高齢社会に関する国際標準化会議・エキスパート 一般財団法人日本規格協会・高齢社会対応標準化国内委員会委員 日本スウェーデン協会理事</p> <p>&lt;佐藤慎吾&gt; 大学卒業後、民間シンクタンクに入社。官公庁の基礎調査や政策提言などを担当。95年にアーサーアンダーセン(現プライスウォーターハウスクーパース)に入社。民間企業のグループ経営のコンサルティングを経て、官公庁サービス事業を立上げ、現在に至る。現在、大学や研究機関のコンサルティング事業を担当している。</p> <p>&lt;大野裕子&gt; 福岡在住 テレビ西日本事業部を経て、九州最大の派遣会社の立ち上げに携わり、90年に株式会社ビジネスリファインを創業。「女性が活躍できる社会は美しい」という信念のもと、社員教育や研修事業、人材派遣、人材紹介事業などで働く女性、働きたい女性、企業とが共に成長する関係作りをサポートするウーマンリソーシングの事業を展開。2005年、大人が礼儀作法・文化教養を学ぶ、フィニッシングスクール インフィニ校長に就任。</p> <p>&lt;西野弘&gt; コンサルティング会社社長を30年務める。2016年に大手企業30社を集めてデジタルビジネスイノベーションセンターを設立、大手企業の個人や組織の変革を推進。 学んだ国は日本・スウェーデン・デンマーク。訪問した国は70ヶ国、話せる言葉は日本語・英語。勤めた会社は3社、設立した会社は5社。好きな人材は好奇心旺盛な人。富山で好きなのは美味しい酒と米と魚。もちろん富山人も。</p>
教科書 / Required Text	
参考書 / Required Materials	
教科書・参考書に関するその他通信欄	授業中に指示します。
成績評価の方法 / Evaluation	講義終了後に提出するレポート(100%)。レポートでは、講義内容を深め、課題に自分の言葉で答えることを重視します。また、創造型ワークショップや議論への積極的な参加も期待します
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	先生は学外講師の皆さんですので、特にオフィスアワーは設けません。質問などは集中講義期間中をお願いします。

授業追加情報 / Course add information

使用言語 / Language	日本語
アクティブ・ラーニングの実施 / Active learning	実施あり
アクティブラーニングの実施内容 / Contents of Active learning	「グループワークとグループ発表」 「学生の能動的質疑応答」
実務経験教員科目 / Work Experience teacher's subjects	該当する
データサイエンス科目 / Data Science subjects	
他学部・他研究科等学生の履修可否 /	可